

課題 220 データ連携・利活用による地域課題解決のための実証型研究開発（第3回）

分野横断的・産業横断的なデータ統合・融合による新たな価値創出を目指して

背景と課題

- 我が国において少子高齢化等の影響に伴い顕在化してきている地域が抱える多くの課題に対しICTを活用した解決策が望まれる。
- 政府においては、超スマート社会として「Society 5.0」の実現を目指し、AIを活用しデータ連携基盤を整備し、組織や分野を超えたデータの連携・利活用を新たな価値創出等の重要課題としている。
※「第5期科学技術基本計画」「統合イノベーション戦略」「未来投資戦略2018」「統合イノベーション戦略2019」「経済財政運営と改革の基本方針2019」
- 国立研究開発法人情報通信研究機構では、地域の多様なデータの連携・利活用により地域課題を解決するだけでなく、他分野・他地域での利活用を考慮し、IoTやソーシャルビッグデータの収集、流通、解析等に関する技術の研究開発・社会実証を推進している。

研究開発の目的

- 地域が抱える多くの課題に対して、新たな技術的課題の研究開発を行い、ICTによる地域経済の活性化や地域課題の解決を目指す。
- 地域横断的な視点を持ち、異なる分野のデータ等を利活用することで、新たな情報通信技術の研究開発を推し進める。
- 地域課題を解決するために、ICTを活用した実証型の研究開発を推し進め、分野横断的・産業横断的な統合・融合による相乗効果を発揮させる、持続可能なサービス基盤の創出を狙う。

研究開発の内容

- 提案する課題は、提案者が具体的に実証地域及び分野を選定し、当該地域・分野の課題解決のため、分野個別の情報通信技術を複数の分野で利活用することやデータのオープン化などにより新たな成果を創出できるように設定すること。
- 新たな情報通信技術の技術的課題の研究開発・実証実験を実施すること。
- 提案する課題は、異分野データ連携、技術の融合、エコシステムの構築を踏まえたサービス基盤の構築、及び以下に例示するような事項に繋がること。
例1) データ流通やデータのオープン化の促進
例2) 良質なデータの収集・オープン化による新たな価値創造
例3) 民間の取組が難しい条件不利地域や社会的弱者等の課題解決
- 提案する課題では、社会実装を目指して実証実験を実施するとともにビジネスプロデューサーが参画する体制とすること。

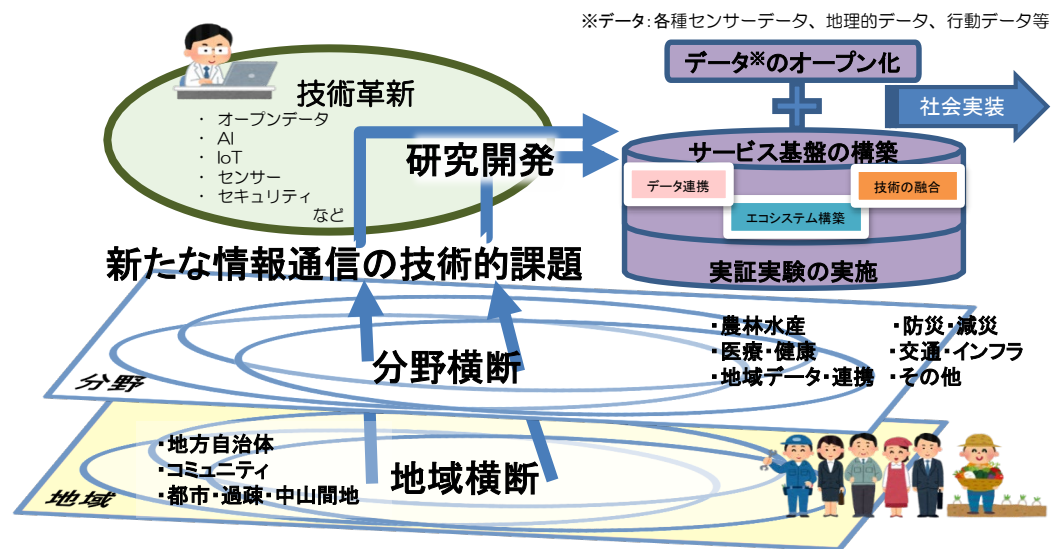


図 当該課題の概要

研究開発期間：2020年度（契約締結日）～2022年度末（2021年度に2022年度以降の継続を判断する中間評価を実施）

2020年度予算：1件当たり総額10百万円（上限）、採択件数：最大10件